

千葉ものづくり認定製品



12年度第2回認定証交付式で森田知事とともに認定証を掲げる社長たち（1月、千葉県庁）

中小の販路開拓を後押し

「千葉ものづくり認定製品」制度は、千葉県内のモノづくり産業のブランドイメージ向上と、県内中小企業が作る新製品の販路開拓支援が目的。の客観的な技術特性が見受けられる部品や、画像解析ソフトなどモノづくりに直結するソフトウェアも対象だ。

10年度からは認定製品を前面に押し出した「千葉ものづくり認定製品」制度とは、独自の技術やノウハウを用いているかなど新規性や市場性、信頼性の高さを審査。認定された製品には認定証が交付され、県のホームページに商品概要を掲載、製品を紹介するガイドブックも発行され、県産業振興センターなどが開く展示会へも出席できるなど、総合的な販路開拓支援を受けることができる。

あすから展示会 市川市で開催

10年度からは認定製品を前面に押し出した「千葉ものづくり認定製品」制度とは、独自の技術やノウハウを用いているかなど新規性や市場性、信頼性の高さを審査。認定された製品には認定証が交付され、県のホームページに商品概要を掲載、製品を紹介するガイドブックも発行され、県産業振興センターなどが開く展示会へも出席できるなど、総合的な販路開拓支援を受けることができる。



認定を受けた葉っぱや（市原市）の家庭用植物工場「葉っぱやガーデン」

葉のものづくり製品、技術展示会を開催し、知名度向上やビジネスマッチングに力を入れている。今年3月1〜3日に千葉市市川市の県立現代産業科学館で開く。39社・団体が出品し、認定製品の实物や各社の技術を紹介するパネルが陳列される。ジャンルは医療機器から家庭用照明、大型産業用機械まで幅広い。会場では「研究開発に役立つ中小企業支援制度」と題したセミナーのほか、デザイン活用に関する個別相談会、千葉県信用保証協会による経営個別相談会も開かれる。一般県民も企業も満足できる展示会となっている。

認定、100製品を達成

さらに新市場開拓へ

1月、県は12年度2回目となる認定製品5品を発表。これで認定数はこれまで100製品を達成した。県庁で開催した認定証交付式には、認定を受けた製品を作る県内企業5社の幹部らが出席。森田健作知事から認定証が手渡された。

交付後、森田知事は「製品開発までには大変な苦労があったと思う。中小企業のモノづくりと技術力は千葉県の宝であり、これからも研ぎ磨いてほしい。県としても一生懸命応援する」と力強く約束をみせた。汚れにくく耐久性に優れた「防汚型車定製品」を展示し、県庁来訪者にアピールした。

5社の担当者は、口々に認定の喜びや、さらなる新製品開発への意欲を語った。

葉っぱや（市原市）は家庭用のミニ野菜工場「葉っぱやガーデン」が認定された。野本一弘社長は「簡単に無農薬野菜が作れ、インテリアにも適した植物工場。認定をきっかけに一般消費者にアピールしたい」と笑みをみせた。汚れにくく耐久性に優れた「防汚型車定製品」を展示し、県庁来訪者にアピールした。

（千葉県白井市）の鷹雄真二（チーフマネージャー）は「製品を千口々に認定の喜びや、さらなる新製品開発への意欲を語った。」と目標を語った。

千葉県内の中小企業の新製品を認定して、県内企業と経済の活性化を一。千葉県は、「千葉ものづくり認定製品」制度を2006年度にスタート。これまでに100製品を認定し、マーケティングや販路開拓を支援している。10年度からは一般県民にも認定製品を広く知ってもらうための展示会も開催し、PRに一層力を入れている。「より多くの人に、千葉の企業が頑張っていることを知ってもらいたい」と。奮闘する企業と県の取り組みを紹介する。

千葉県の取り組み



千葉県商工労働部長 佐藤 忠信氏

より効果の高い活性化策に

千葉県には優れた技術力を持つ中小企業が多数存在するが、一方で販売やマーケティングに十分な人員を割けないという悩みも多く聞かれる。そこで中小企業向け製品から産業機械までの製品に行政のお墨付きを与え、販路開拓やブランドイメージの向上を支援する「千葉ものづくり認定製品」制度を06年度に創設した。これまでに、一般消費者向け製品から産業機械までの100の製品を認定し、製品に認定証を交付し、製品を紹介するガイドブックも発行され、県産業振興センターなどが開く展示会へも出席できるなど、総合的な販路開拓支援を受けることができる。

現代産業科学館（市川市）で開催している。企業や一般県民の皆さんが認定製品を見て、直接担当者に見学し、認定証で会社の信用度が高まり、商談会や展示会での引き合いが増えた。「メディアに取り上げられる機会が増えた」といった声も聞かれる。

10年度からは新たな試みとして「千葉ものづくり製品」技術展示会を県立現代産業科学館（市川市）で開催している。企業や一般県民の皆さんが認定製品を見て、直接担当者に見学し、認定証で会社の信用度が高まり、商談会や展示会での引き合いが増えた。「メディアに取り上げられる機会が増えた」といった声も聞かれる。

00人の来場があり、今年も3月1日から3日間開催する。デザインや経営に関する個別相談会も開く予定。認定製品は、県産業振興センターなどが開く展示会へも出席できるなど、総合的な販路開拓支援を受けることができる。

メカ

<http://www.j-mecha.co.jp>



1322

観覧車のように回る羽根で食材を押し出す自動フライヤー。冷凍コロッケなら1時間300個、トンカツなら1時間180枚の連続調理可能。油温調整、羽根の回転スピードを自由に設定でき、1度の油で揚げられる。使用した油を廃油として回収する。削滅する。（千葉県白井市）中403の15白井工業団地、047・498・1322

観覧車式 自動フライヤー

山本科学工具研究社

<http://www.ystl.jp>



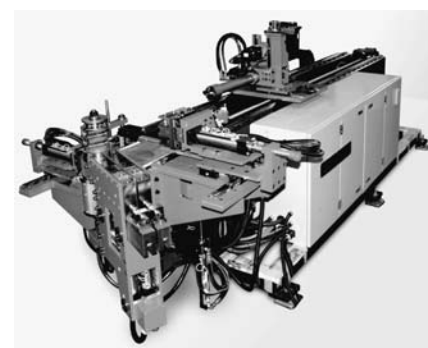
（千葉県船橋市栄町2の15の4、047・431・7451）

ナノインデンテーション用 微小硬さ基準片

電子デバイスやナノ技術などの分野における微細な組織の硬さを測る試験機の制度管理などの際に用いる。インデンテーションとは「押し込み」のこと。硬さ試験は、試料に圧子を押し込んで、押し込みの深さや、押し込みの深さとの関係を評価。評価の検証時に硬さ基準片を使用。組織が均一で、硬さの値にバラつきが少なく、正確な検証に寄与する。特許第2879679号、特許第4858773号（千葉県船橋市栄町2の15の4、047・431・7451）

京葉ベンド

<http://www.keiyo-bend.co.jp>



（千葉県市川市大洲4の7の12、047・377・152）

太いパイプや丸棒に複雑な曲げ加工をほどこせるベンド。左右曲げ機構と材料を回転させる機構を組み合わせた、多方向の曲げ加工を実現した。自動車のヘッドレスト加工を中心に、電気自動車、フレキシブルな高い加工が求められる家具などにも用途を見込む。

NC制御による 多方向曲げ加工機

ナルビー

<http://www.nalbie.co.jp>



（千葉県市川市湊17の8、047・357・6208）

ガラスなど鏡面部の表面に付いた汚れを除去するスライダースクリーパー。作業、刃の収納、刃の交換の3モードを選択できる。また刃先の角を丸くする。従来のガラスクリーパーに最適な刃や利便性を高めた。構成部品は3点のみでコストにも配慮した。グリーンプラッタの2色を用いた、建物、意匠、清掃業者や一般家庭に拡販している。

スライダースクリーパー

ベンチャー。 中小企業を支援

千葉産業人クラブ

〒260-0028 千葉市中央区新町19-13
（日刊工業新聞社 千葉支局内）
TEL.043-245-2711 FAX.043-245-2712

平和化学工業所

<http://www.heiwakagaku.com>



（千葉県市川市原1の5の12、TE L 047・328・3531）

ボトルの原料となるバイオマスプラスチックは、資源米の粉と樹脂をコンパウンドして作られている。素焼きの陶器に水分や酸素の透過率を下げることに成功した。今後はバイオマス層に残る米の成分を抑制し、あらゆる用途に利用できる製品を目指す。

バイオマスボトル（資源米シリーズ）